



元気な顔が勢ぞろい

町内10小・中学校で8月27日から2学期が始まりました。元気に日焼けした顔が教室に勢ぞろいし、夏休みの成果をみんなで見せ合っていました。

(写真は藤井小の1年生教室)

体力づくり強調月間

ウォーキングを生活の一部に

あなたは、自分が1日に何歩歩いているかご存じですか？ほとんどの人は「計っているわけでもないし、分らない」と答えるでしょう。歩くということは生活の一部で、特別な理由がない限り、意識して歩くほうがめずらしいといえます。ところが、最近、この「歩く」ということが見直されています。誰にでもできるスポーツ「ウォーキング」として注目を浴びているのです。

10月は体力づくり強調月間。歩くことを見つめ直し、もっと積極的に生活の中に取り入れてみませんか。



歩かなくなった現代人

現代人は歩かなくなった……とよく耳にしますが、実際にはどうでしょうか。

現代のサラリーマン、主婦、小学生でみた1日の歩行量を調べたデータがあります(表参照)運動不足を解消し、健康を維持するためには、1日1万歩は必要であるといわれています。

ところが、1万歩を越えているのは、ゴルフやハイキングなどの特別な日と、外で遊んでいる子どもたちだけ、大人に限っ

ていえば、普通の生活をしているだけでは歩行量が不足しているのです。また、子どもにしても、家の中でTVゲームに夢中になっているようでは、1万歩には程遠いでしょう。

現代人の歩行量(1日の歩数)

サラリーマン	マイカー通勤	3,460歩
	バス・電車通勤	7,960歩
	ゴルフ(1ラウンド)	15,600歩
主婦	家事	5,320歩
	ハイキング(尾瀬)	31,500歩
	歩け歩け大会(25km)	40,800歩
小学生	室内遊び(雨)	6,080歩
	戸外遊び(晴)	14,200歩

成人病は運動不足病

運動不足が、さまざまな成人病を引き起こすことが分かっています。代表的なものは、

- ① 高血圧症
- ② 高脂血症(血液中のコレステロールや中性脂肪が多くなる)
- ③ 心臓病(心筋梗塞や狭心症など)が挙げられます。

なぜウォーキングなのか

ところで、「健康維持のためにも運動は欠かせない」「さあ、運動しよう」となったとき、気をつけてほしいことがあります。それは、運動不足を解消するには息の切れるような運動でなければ効果がないと錯覚してしまうことです。

運動不足といっても、運動の強さが不足しているのではなく、運動の量が不足しているのです。

そこで、軽い運動で、長く続けることのできるものとしてウォーキングが注目されているのです。1km走っただけでへたばってしまう人でも、歩くのなら2、3kmと続けられるでしょう。よく、1km走るのと1km歩くのでは、エネルギーの消費量が違うと思われるがちですが、これは大きな間違い。歩いても走っても距離が同じなら、消費されるエネルギーは同じなのです。

歩き方は自由に

歩くのにルールはありません。こういった気軽さがウォーキングの良いところでもあります。むずかしく考える必要はありません。そう、歩ける距離だけ歩けばいいでしょうし、歩きたいとき、歩けるときに歩けばいいのですから。

また、歩く速度も自由です。散歩するときのゆっくりした歩行から、グンクン歩く速度まで、その時の体調や気分にあった速度で歩いてみましょう。ただし、食事のすぐあとの運動はあまり好ましくありません。

始めてみよう

ウォーキングを始めてみましょう。なか、スポーツの秋といわれるこの時期は、ウォーキングを始めるのにとてもいい季節です。町では、次のようなウォーキング大会を予定していますので、ぜひ、ご参加ください。

●10月10日「町民歩け歩け大会」

(午前6時 町総合運動場)

●10月24日 健康ふくしまつり

「健康ウォーク」

(午前10時 町総合運動場)

土地基本調査

10月～11月にかけて 全国一斉に実施します

約70万人の法人と約60万人の世帯を対象に、土地基本調査が10月～11月に行われます。調査目的は、総合的な土地情報を国が収集して、宅地の供給、都市計画などの土地対策の立案・実施の基礎資料とし、地価高騰の防止などに役立てるためです。

土地施策の基礎となる

総合的な統計データを作成

昭和50年代に始まった地価の高騰は、バブル経済のときピークに達し、土地が「商品」として取り引きの対象となりました。そのため、都市部や都市近郊の土地は、「いつかは自分の土地を」と思っていた庶民の手の届かないところになってしまいました。

このとき、国の対応の遅れを指摘する声が多くなりましたが、国では、全国の土地を網羅する土地情報がなかったため、タイムリーな対応ができていない状況がありました。

調査内容は土地の 広さや利用状況

今回の「土地基本調査」は、こうした過去の経験を踏まえて行われる、日本で最初の土地に関する大規模で総合的な統計調査です。

調査内容は、所有する土地の広さや利用状況、取引状態などのほか、土地所有者の属性（世帯り家族構成・年収など、法人・業種・資本金など）をお尋ねします。ここまでご記入していただくのは、これまでの土地情

報とはまったく違う、日本の土地施策の基礎となる総合的な統計データを作成するためです。

これができる、「日本の土地はどのような人がもち、どのように利用されているのか」が把握でき、土地に対するさまざまな対応が一層タイムリーに打てるようになります。

有効な土地施策の 立案に役立てる

調査結果は、効率的な宅地の供給や都市計画など、有効な土地施策を立案するための基礎的なデータとなり、地価高騰の抑制などの面で大きな効果を生みます。さらに、年収の5倍で家を購入できるようにする（生活大國五か年計画）ための具体的な対策を考える上でも重要です。

土地基本調査に ご協力ください

土地基本調査世帯調査をお願いします。10月下旬に、調査員が調査票をもって伺います。

11月のはじめごろ、調査票を集めに伺いますので、それまでにご記入をお願いします。

豊かさは 住みよい環境 住まいから

ご協力をお願いいたします

住宅統計調査

今回のテーマは「住生活の充実」

今年住宅統計調査の年。昭和23年から5年ごとに行われているこの調査も、今年で10回目を迎えました。

住宅統計調査の結果は、国や地方公共団体の住宅政策を立案するうえで、重要な基礎資料として役立てられます。また、公営住宅の建設計画、大学の研究機関の住宅・防災問題などの研究にも利用されます。

今回の調査は、全国の14万7,000地域、約400万世帯を対象に、平成5年10月1日現在で行われます。9月下旬から調査員が各世帯を訪問し調査票を配布しますので、調査の対象となった世帯の方は、調査へのご理解とご協力をお願いします。なお、調査票は10月1日以降に回収します。

駐車場や庭などの項目を新たに追加、より現代にマッチした住宅の質を考えます

高齢化社会に対応した、住まいと住み方（同居・近居など）の実態を調べます

調査の狙い 四つの ポイント

人口の都市集中が、住生活にどのような影響を与えているかを詳しく調査します

地域活性化の基礎資料となるよう、地域に密着した住宅事情を明らかにします

提出していただいた調査票は、統計以外の目的で使われることはありません。集計完了後、薬品で溶かされますので、調査対象者のプライバシーは完全に保護されます。

シルバー・ドライバーの安全運転セミナー

年齢と体力に合ったハンドル操作を

高齢化社会への道を歩みつづける日本——これに伴い、車社会も、「ドライバーの高齢化」という、新しい事態を迎えています。

今回は、シルバー・ドライバーの実態と事故の傾向、さらに、どうしたらシルバー・ドライバーの起こす事故を減らしていけるのかなどを考えてみましょう。

毎日のように運転する人が約63%

＜運転目的＞

仕事や通勤などといった車の使用は、年齢が高くなるほど少なくなり、「買い物」や「家族の送り迎え」など、個人的な、ちよつとした用事で運転する場

合が多いようです。

＜運転頻度＞

毎日運転するという人は、年齢とともに減少するものの、ほとんど毎日ハンドルを握っている

運転中どんなときに不安や危険を感じるか

「後ろから追い上げられたとき」、または、「大型車のあとについて運転するとき」などは、どの年代にも共通する不安とい

るのが60歳以上の人でも約63%、週2・3日という人を加えると約88%にもなります。

＜走行距離＞

若年層の年間走行距離が、約2万kmなのに対し、高齢層は約1万kmと、ほぼ半分です。

＜車の車種＞

年齢が高くなるほど、小回りの利く、より小さな車種へと移行する傾向があります。

えますが、シルバー・ドライバーにとって特に不安感が強いのは、「速い速度での走行」「進路変更」と「狭い道での対向車

とのすれ違い」です。これは、女性ドライバーにみられる不安感と、共通するものがあります。

また、車を運転しているときに、「どのような場面を危険と感じるか」という危険意識については、スピードオーバーが特に目立ちます。「車の流れに合わせて走るうちに、制限速度を越

高齢者が事故となるケースが急増

交通事故で亡くなった、65歳以上のお年寄りが、「どんなときに事故に遭ったのか」というデータを紹介します。

平成5年5月末現在の総務庁の資料によると、交通事故で亡くなる人の約4分の1は、65歳以上のお年寄りで占められています。歩いていて事故に遭い、亡くなったお年寄りの人数は全体の約52%に当たる567人（前年比マイナス28人）と数の

視力など、心身機能の低下が事故を招く

シルバー・ドライバーの事故で多いのは、出会い頭と右折時

えてしまう」ことを非常に危険と感じるのは、30歳代のドライバーの約3・6倍にもなります。このほか、「合図なしの車線変更」「無理な割り込み」「追い越し禁止場所での追い越し」などが、シルバー・ドライバーに多くみられる危険意識として挙げられます。

上ではトップです。しかし、自動車運転中122人（前年比プラス16人）、二輪車運転中141人（前年比プラス27人）と自動車や自動二輪、原付自転車を運転中に事故に遭い、亡くなるお年寄りが増えています。交通弱者として、被害者の立場にあった高齢者が、シルバー・ドライバーが増加するにつれ事故の当事者になるケースが増えているのです。

高齢化に伴い急増するシルバー・ドライバー

年齢	1985年	1990年	1995年	2000年
16～39歳	3,128	3,238	3,346	3,377
40～49歳	1,108	1,442	1,523	1,319
50～59歳	709	864	1,031	1,302
60歳～	329	519	735	931
合計	5,274	6,063	6,635	6,929

運転免許を所有する人すべてに占める高齢者の割合は、年々増え続けています。7年後の平成12年には、60歳以上の運転免許者が約930万人に上るといわれています（表参照）。これは、運転免許の保有者全体の約13・4%にもなります。この背景にあるのは、人口の高齢化です。平成12年には、65歳以上のお年寄りが全人口の約15・6%を占めるといわれています。

運転免許保有者数の推計
（単位：万人）

の事故。この傾向は、軽自動車や原付自転車に多くみられます。一方、事故にまつわる交通違反で、

30歳代と比べ約22%衰える視力

これらの事故が、なぜシルバー・ドライバーに多いのか。その一因として考えられるのが、年とともに衰える心身機能です。なかでも、「反応速度」は年をとるとともに鈍くなる一方で（図参照）、これが判断を伴う反応速度ともなると、30歳代の約10倍もかかってしまうといわれています。しかし、その程度は一樣ではなく、特に60歳以上の人では個人差が目立ちます。

反シルバー・ドライバーに目立って多いのは、一時停止違反と優先通行違反です。

反応速度とともに、衰えやすいのが目、つまり「視力」です。60歳以上の人は30歳代と比べ、約22%も衰えるといわれています。このほかにも薄暗いところでの視力や動くものをとらえる視力（動体視力）も、年を追うごとに低下してきます。

また、シルバー・ドライバーが、子どもの飛び出しなどが、子どもつながるものを見落とす理由の一つに、注意力の低下、俗

シートベルト着用推進

キャンペーンクイズ

問1 車に乗っている人は、思いがけない衝突事故にそなえて、車内ではどのような姿勢でいるのがよいでしょうか。

- ① シートベルトを着け、きちんとした姿勢で着席している
- ② シートベルトを着けなくても、ハンドルや座席の背もたれにしっかりとしがみついている

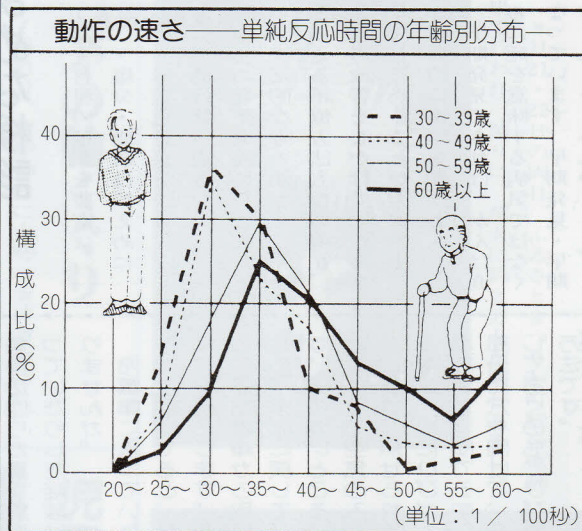
いればよい

③ シートベルトを着けなくても、両足でしっかりと踏ん張っていいでしょうか。

- 問2 ドライバーや助手席に乘る人は、シートベルトを着けるよう決められています。次のうち正しいのはどれでしょうか。
- ① 高速道路を走るときだけ必ずつける。

にいう「ほんやり」があります。わき見はしていないのに事故に

動作の速さ——単純反応時間の年齢別分布——



※単純反応時間—熱いやかんに手を触れたとき、反射的に手を引く込めるような、反射的あるいは筋肉的な動作反応の速さ

つながらることを見落としてしまいがちなのです。

自分の体の衰えに合った運転を心がける

シルバー・ドライバーの交通事故を防ぐには、どうすればよいのでしょうか。年齢とともに、心身機能の低下が避けられないとなれば、「自分の心身機能はどのくらい低下しているのか」を正しく把握し、それに合った運転を心がけることが大切です。

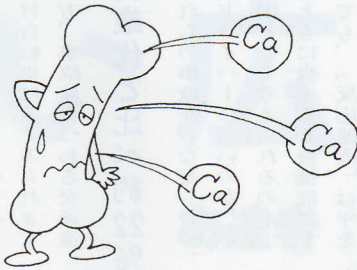
例えば、夕暮れ時などに、物が見えにくくなる人、この時間帯の運転を避けたり、また、「自分の反応速度が低下しているな」と感じたら、まわりの状況に注意を払って、事故を回避できるように心がけたりすることが必要になってきます。

ここで肝心なのは、車の運転にかかわる心身機能の低下は、なかなか自分では自覚しにくいもの。そこで、定期検診や、運転免許センターで自分の反応速度を測るなどの自己管理が望まれます。また、あの人にできるのだから、自分も、とは決して思わないことです。高齢者は個人差が大きいことを忘れてはなりません。

- ② 高速道路も一般道路も走るときには必ずつける
 - ③ 高速道路も一般道路も自分が危険を感じたときに着ける
- 問3 小学校に入学する前の子どもが車に乗るとき最も安全なのは次のうちどれでしょうか。

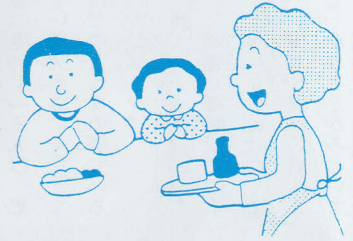
- ① 大人の膝の上にだっこする
 - ② チャイルドシートを着けてすわる。
 - ③ そのまますわる
- 応募方法
官製ハガキに、希望の商品名、クイズの答え、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号を明記のうえ、
- 〒106 東京都港区西麻布3-24-20 (財)日本交通安全教育普及協会「シートベルトクイズ」F係まで郵送してください。
- 商 品
- A賞 CDラジカセ 40名
 - B賞 パーソナルカラーテレビ (14型) 40名
 - C賞 東京デイナーニラント パスポート(4枚) 50名
- 募集期間
9月21日から11月15日まで

あなたの骨は大丈夫？



年をとると誰でも骨の量が減ってきます。そして、この状態が進むと腰や背中の痛みが出てきたり、脊骨が曲がったり、また、骨折しやすくなったりします。これが、骨粗しょう症という病気です。

食事と健康 50



骨粗しょう症の予防

骨粗しょう症を予防するための食事は、バランスのよい食事を心がけることはもちろん、特にカルシウムを多く含んだ牛乳・ヨーグルト・チーズ・小魚・大豆製品、小松菜・海草などを積極的にとることです。中でも、牛乳や乳製品のカルシウムは、人体にとって効率がよいものです。

しかし、ビタミンDが不足すると、カルシウムの吸収が悪くなり、リンの多い食事をしている、カルシウムの吸収が悪くなります。加工食品はリンをたくさん含んでいますから、とりすぎに気をつけましょう。また、アルコールの飲み過ぎや喫煙、運動不足も骨粗しょう症に関わってきますので、注意しましょう。

ガン征圧月間 生活の改善とまめな検診

がんが、死亡原因の一位に上って13年。国内の死亡者のほぼ4人に1人は、がんが原因です。毎年、全国で22万人以上の人がこの病気で亡くなり、このうち、30〜60歳前半の働き盛りの死亡者は全体の約34%を占めています。

予防は食生活の改善

では、具体的にどんな事に気をつければよいのでしょうか。がんの発症に、食事や運動、喫煙などの生活習慣が深くかかわっていることが、多くの研究・調査から分かっています。

- 注意点
- ・材料の種類を豊富に
 - ・塩分・脂肪は控えめに
 - ・緑黄色野菜を十分に
 - ・酒は飲み過ぎない

がんの発生原因に「これ」という決定的なものがなく、完全といえる治療方法もない現在、生活の改善を心がけて、がんを予防していくことが大切です。

積極的に検診を受けよう

早期発見できれば、がんは直ちに死を意味する病気ではなくなっています。早期発見・早期治療をするためにも、進んで検診を受けましょう。

暮らしのワンポイント

秋は運動会や遠足、ピクニックと行楽行事がめじろ押し。家族そろって、お弁当を食べる機会が増えます。お弁当のメニューでおなじみのゆで卵です。そこで、上手なゆで卵の作り方を紹介しましょう。

ゆで卵の上手な作り方

針で「気室」に穴を開ける

ゆで卵の黄身の表面がしばしば黒くなる場合があります。これは、卵白の成分のアミノ酸が熱で分解され、硫化水素を出して、卵黄の鉄分に作用するためです。ゆで過ぎが原因ですので、注意してください。

ゆで卵の黄身が真ん中にくるようには、卵をはして転がしながらゆでるのがポイントです。こうすると卵白から固まりはじめ、黄身が中央に落ち着きます。



秋は運動会や遠足、ピクニックと行楽行事がめじろ押し。家族そろって、お弁当を食べる機会が増えます。お弁当のメニューでおなじみのゆで卵です。そこで、上手なゆで卵の作り方を紹介しましょう。

平均的なゆで卵の作り方は、鍋底に卵を並べ、卵の上二センチ

観光のイメージアップを図る案内板



「壬生町へようこそ」

観光協会が案内板を設置

壬生町観光協会では、観光のイメージアップを図るため、県

道宇都宮・栃木線の今井地内(通称壬生バイパス南入口)の道路西側に案内板を設置しました。

案内板は、青色の地下に「壬生町へようこそ」(両側面)、「緑と太陽のふれあいタウンみぶ」(正面)と壬生町の特産物

「かんぴょう」と「いちご」の絵がかかれています。

また、壬生の観光名所を広く宣伝するため、獨協医科大学病院構内に観光案内板を設置しました。これは、壬生駅前とおもちゃのまち駅西口に続いて3基目です。

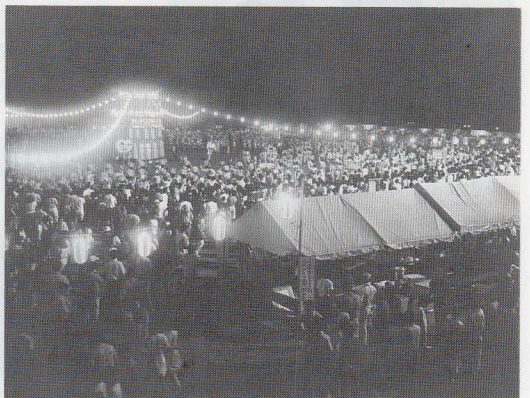


獨協大病院構内に設置した観光案内板

ふるさとまつり

2万人がまつり楽しむ

8月21・22日の両日、ふるさとまつりが町総合運動場で行われ、踊りに、花火に約2万人が楽しみました。



茅の輪くぐり

7月31日、雄琴神社に大勢の参拝者が訪れ、茅の輪をくぐり無病息災を祈りました。



児童館夏まつり



町児童館母親クラブ(岡本恵会長)主催の夏まつりが7月24日、同児童館で開かれ、120名の親子連れが参加。六美第一あけぼの会(角田茂之会長)に応援をいただき、おみこし、缶つり、すいか割りなどを楽しんで交流を深めました。

い 広 場

青春スケッチ ②⑧

お達者
カップル



⑥⑥中表町

日永 甲子一さん(81)夫妻
工 伊さん(72)

甲子一さんは、17歳のころに
剣舞を習いました。当時、表町
の剣舞（神刀流）は有名で、「そ

のころは踊りたくて、いろいろ
なところのお祭りに行つて踊つ
た」といいます。現在は、月2



目下、テニスに熱中

安塚三 黒崎 美千子さん

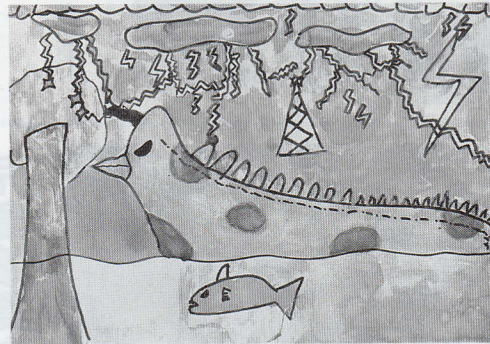
「性格は、夢中になりやすいタイプというか、凝り性ですね」と自己分析する美千子さん。

何事にも「一生懸命」がモットー。中学・高校とハンドボールに熱中し、高校の時にインターハイで3位に入賞したのが良い思い出という。目下、テニスに熱中している彼女。今度は乗馬を習いたいというさわやかなスポーツウーマンです。

羽生田小 四年 篠原由紀子

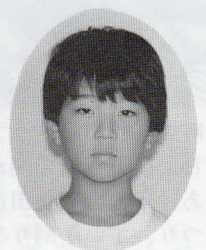
林

羽生田小学校 4年
篠原由紀子

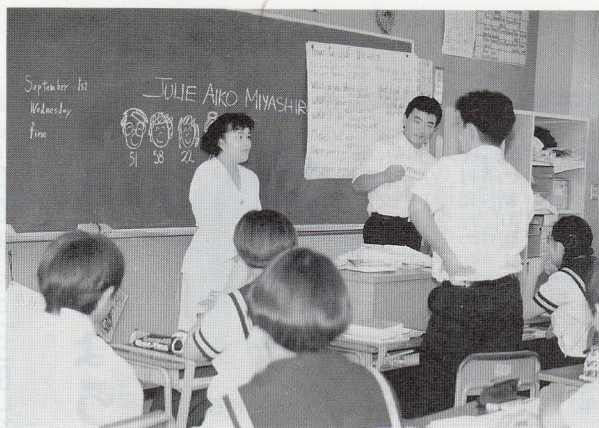


私の作品

「グアナコ」
羽生田小学校 2年
木野内 喬



ふれあ



新任AET紹介

お母さんが本県出身の日系4世

この7月に壬生町の新任英語指導助手(AET)として来日したミヤシロ ジュリー アイコさん(22歳)は、日系4世のアメリカ人で、お母さんのトヨコさんは南河内町出身です。ジュリーさんは、ワシントン市の日本人学校で6年間(小学1~6)学びましたが、「肌で日本の文化と言葉を吸収したい」とAET

アイコさん(アメリカ)に応募し、「母親が生まれた栃木県で働きたい」という希望もかないました。これから1年間、AETとして壬生中と南犬飼中で教えるわけですが、「たくさん生徒と友だちになりたい」、そして「日本について多くのことを学びたい」と意欲的なジュリーさんです。

回、老人会に奥さんのエイさんと2人で行き、カラオケを歌ったり、踊ったりするのが楽しみで、これまでに4~5回老人演芸大会に出て、得意の踊りを披露したそうです。

いまは米だけしか作っていませんが、畑へ行つて作物を見るのが楽しみで、「体のエンジンがかかるうちは農業を続けたい」と話すお元気な甲子一さんです。

50年以上も病院生活をしたことがなく、1度、血圧が200に上ったことがあり、以来、「自分のことは自分で気をつけなくては

や」と思い、食事時間を決め、健康管理に注意しています。タバコは味知らずで、酒は45歳ごろから口につけるようになり、今でも1合の晩酌をしています。エイさんは、下表町の星川家9人兄弟の4女として生まれ、昭和16年に結婚、今年で52年目になります。

いまは、若夫婦2人が勤めているので、「できるだけ家事を手伝っている」といい、「自分で面倒をみてたから、大学へいつている2人の孫の顔を見るのが楽しみ」と話していました。

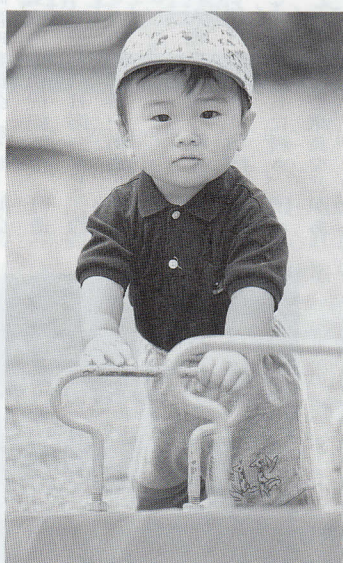
チビっ子アルバム



のぞみちゃん(2歳・長女)

(父) 山 室 義 雄さん
(母) " あや子さん
(県営壬生住宅)

お母さんから一言
元気にのびのびと育ってほしいです。



将智ちゃん(1歳・長男)

(父) 長 田 健 一さん
(母) " さよ子さん
(県営壬生住宅)

お母さんから一言
元気で思いやりのある子になってほしいです。

『かんびよの詩』を出版

うた

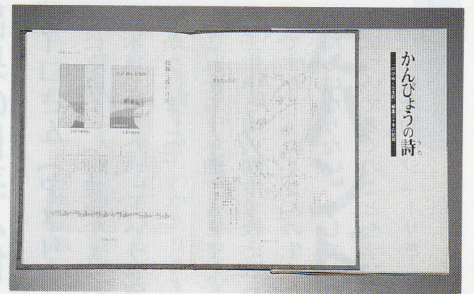


衆川 悦氏

小学校中学年用社会科副読本「のびゆく壬生町」は、昭和38年3月発行の初版から平成3年4月の新訂版まで計9回編集・発行されていますが、その全部に携わり、平成4年3月に定年

退職された衆川 悦氏（元安塚小学校長、現町立図書館長）が、編集をとおして見聞きしたことや経験したことを、このほど、「かんびよの詩」にまとめて出版されました。

この本は、約30年の副読本編集の歴史であると同時に、衆川氏の歩んだ道であり、言わば「自伝史」ともいえるべきもの。「副読本編集の苦勞や喜びを現代の



人に読んでもらい、後代に残す記録となれば」というのが、衆川氏が「かんびよの詩」に託した思いです。

豊塚を七言絶句に

大橋理三郎さんが 自筆の色紙を寄贈

西峰流宗家の詩吟家として有名なで、壬生町文化協会会長でもある大橋理三郎氏（藤井台坪）

が、精忠神社裏にある豊塚の碑に立ち、その感慨を漢詩・七言絶句に表わした自筆の色紙を、町教育委員会に寄贈いただきました。

題豊塚

大橋西峰

一字閑林近本丸
孤城落葉散碑垣
元公義烈屠時豊
晚憾更遷佇塚端

（説明）豊塚に題す

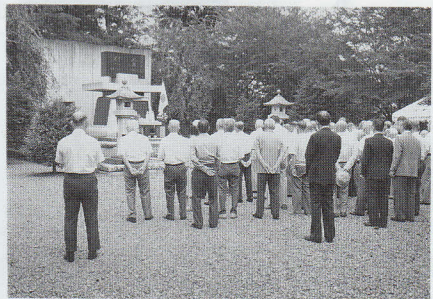
一字（大空）も秋は特に高く、その下の閑かな木立の中に、しかも本丸のあった場所に近く／孤城というにふさわしい壬生城も今は姿なく落葉のみが石碑の垣に散りかかっている／元忠公の義烈は人の良く知るところであり、最後に屠腹した時の血染めの豊がこの塚に祀られてあるという／晚れかけた今、更遷（歴史の移り変り）を憾みに（心残り）思いながら、この豊塚の端に感慨深く佇む（立ちつくす）のである。

180人が出席し平和祈願祭

48回目の終戦記念日を迎えた8月15日、三好町にある東雲児童公園内の戦没者慰霊碑前で、慰霊碑管理委員会（佐藤三郎会長）主催の平和祈願祭が、町遺族会、軍恩会、日傷会など、約180人の関係者が出席して行われました。

先の大戦で祖国の礎となつて身を捧げた780余柱の英霊に対し、佐藤会長に続き、清水町長、石川町議会議長などがあいさつを述べ、今日の平和と発展を感謝しました。

最後に、全国戦没者追悼式の



合図に合わせて、出席者全員が正午から1分間の黙とうをしました。

奉仕活動で剣士三訓を実践



去る8月2日、壬生少年剣道教室（三上義市師範）の生徒と父母50名は、東雲児童公園と慰霊碑前の清掃作業を行いました。

同教室は、平素から「町を愛し、国を愛し、正しいことは進んで行います」を剣士三訓としていますが、この日はその実践をかねて約2時間、炎天の下で汗を流しました。

子どもみこしがワッショイ!

六美町北部自治会で夏まつりが8月1日行われ、小学生の子どもおはやしを先頭に、子どもみこしが2基くりだして、元気良い掛け声を上げながら自治会内を練り歩きました。



老若男女が踊り楽しむ

安塚地区コミュニティー恒例の盆踊り大会が安塚小学校庭で8月8日、地区内の子どもたちからお年寄りまで多くの人たちが参加して盛大に行われました。



むらづくりでかんぴょう踊り大会

伝統文化の保存・地域の活性化を図るため、藤井むらづくり推進協議会が中心となって各自治会・団体と実行委員会を組織し、藤井小学校庭で8月28日、藤井むらづくりかんぴょう踊り大会が行われました。



多彩に繰り広げられる

おもちゃのまち駅西口広場を会場にして8月7・8日の両日、「'93陸サマーフェスティバル」が行われ、陸の有名人大集合、筋肉人間登場、15周年を記念した福引きなど、多彩に繰り広げられました。



文芸

短歌

文化協会文芸部選



青大将という位をもてる蛇の居て
沢庵樽の下に首をのぞかず

正田良次郎

平凡が幸せなりと在りし日の
父の言葉をかみしめてゐる

渡辺真夕美

日傘にて逢いたくない人を遮ぎ
りて残暑の町を足早にゆく

神林 文恵

背広にてスーパ―に買物してゐ
るは単身赴任か後姿さみしき

黒尾 壮

俳句

箸うまく使う子のゐる冷奴

秋山 セン

火花果てどこかむなしき人の群
冷奴夫への愚痴の他愛なき

佐藤 淑子

法燈に風すこしある冷奴

山田 カツ
衆川 正枝

県議会土木委が現地調査

国民文化祭の会場とつながる 道路工事の早期着工を要望

栃木県議会土木委員会（渡辺渡委員長ほか7名）と県関係者の一行が8月17日、県道羽生田・上蒲生線の落合一丁目と国谷南坪間の江川に架かる観音橋に現地調査のため訪れました。

県道羽生田・上蒲生線は、壬生町・石橋町・上三川町を結ぶ



道路ですが、本町で平成7年度に開催される国民文化祭主会場になるおもちや博物館と運動公園の表玄関道路とつながります。このため、観音橋から同表玄関道路とを結ぶ路線（500m）の早期着工を要望するものです。

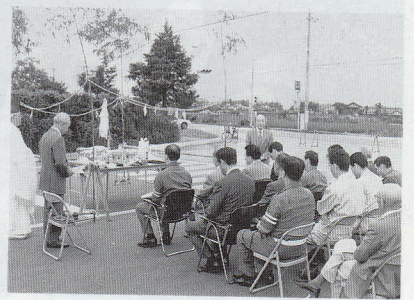
この日は、町から清水町長ほか町執行部をはじめ、地元の佐藤県議、町議会から石川議長、鈴木副議長、石村建設水道常任委員長が出席し、清水町長が要望路線の説明をして道路工事の早期着工をお願いしました。

このほか、次の4か所も早期着工を要望しています。

- ①（河川改修）黒川の東雲橋と藤井橋間1、600m
- ②（道路改良）国谷地内の県道宇都宮・栃木線2km
- ③（橋梁整備）国道352号線の黒川に加かる東雲橋の架け換え
- ④（道路改良）今井の県道宇都宮・栃木線延長1、950m

1 km区間が直線に

下稲葉地内の県道国谷・家中・停車場線で道路新設工事（国道352号線との交差点から西1km区間）が完了し、8月5日、県および地元、町関係者が出席して開通式が行われました。

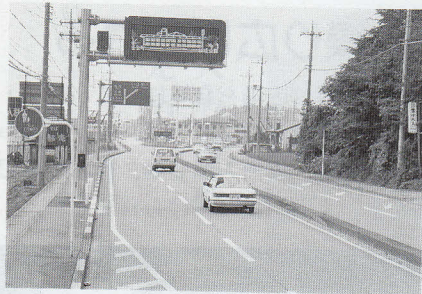


電光掲示板が設置される

ドライバーに道路情報を提供

壬生車塚地内の県道宇都宮・栃木線（通称・壬生バイパス）の栃木方面に向かう車線に、このほど、道路情報提供装置（電光掲示板）が設置されました。

これは、安全で円滑な道路交通を確保するため、道路情報をドライバーにお知らせすることを目的に県が設置したもので、県内で4か所目の施設となります。



電光掲示板には、道路情報のほかに、壬生町城址公園や栃木市蔵の町をイメージスケッチした絵画面が映し出され、地域のPR情報も含まれています。

また、宇都宮方面に向かう反対車線も間もなく設置される予定で、そこには、現在建設中のおもちや博物館のPRが入ることになっています。

ご寄付（社会福祉協議会）

- 金1万2千405円（26回） 渡辺 寅八様
- 金1万円（3回） 山田 静雄様
- 金1千801円（2回） 金川 ひさ様
- 金5万円（6回） 伏木美佐恵様
- 金5万円（6回） 戸澤 浅一様
- 金2万円（3回） 匿名様
- 金2万4千287円 壬生中学校同窓会一同（昭和31年卒）様
- 金4万3千616円（5回） 栃木県歌謡協会県南支部様

10月の納税等

- 町県民税（3期）
 - 国民健康保険税（4期）
（納期限11月1日）
 - 国民年金（7期）
（納期限10月29日）
- 納期限間際には、納付窓口が大変込み合います。早めに納付しましょう。

まちのうごき

9月1日現在

総人口	40,066人	(△16)
男	19,765人	(△4)
女	20,301人	(△12)
世帯数	12,099世帯	(+2)
	() 内は前月比	